

令和5年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央区立常盤小学校

学校の教育目標

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">上品で豊かな心と健康な身体をつくる互いに尊敬し合い協力して平和な社会をきずく | <ul style="list-style-type: none">勤労を尊び喜んで自分のつとめを果たす |
|---|--|

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

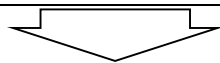
- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">自ら主体的に考え計画的に行動ができ、思考力・判断力・表現力を、課題解決のための必要な力を身に付けさせる。国際教育（英語科、地域学習）の学習を通して、国際親善に貢献する態度を培い、伝統や文化を理解する心豊かな人間性を育む。マイスクールスポーツを充実させ、体力向上に努める。 |
|---|

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

| | 児童・生徒の学力の課題 | 主な要因 |
|----|--|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none">令和5年度の学力サポートテストの結果は、全ての観点で全国平均正答率を上回っている。説明文の読み取りで、情報と情報との関係について整理することに課題がある。（目標値50%校内正答率46%）言葉の学習における連用修飾語の用法、主語と述語の関係についての理解に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none">言語活動において、集めた情報を目的に応じて分類したり関連付けたりすることや、それらの情報を基に伝えたいことを明確にした筋道の通った文章構成を考えたりする活動を取り入れる。主語と述語の関係や連体修飾語と連用修飾語の違いを理解できるよう具体例を出して指導する。 |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none">令和5年度の学力サポートテストの結果は、全ての観点が全国平均正答率を上回っている。比例、単位量あたりの大きさの単元の正答率が低い。（目標値55%校内正答率48%）いろいろな形の単元におけるひし形の作図や角の大きさの目盛りを読み取る問題の正答率が低い。 ひし形（目標値70%校内正答率57.8%） 角の大きさ（目標値80%校内正答率71.1%）問題の解き方を記述して説明する問題に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none">文章問題では数直線図をすすんで取り入れ、数量関係を理解し、何を求めようとしているのかを明確にして立式できる習慣をつくる。正しい図形の書き方を身に付けさせるために、図形の描き方を言葉でも説明できるように言語活動を取り入れるとともに、作図を反復して行う。式や図、数直線など多様な方法を考えさせる時間の確保が必要。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none">令和5年度の学力サポートテストの結果は、全国平均正答率を上回っているが、5年の、思考力・判断力・表現力の観点が、わずかではあるが区の平均正答率を下回っている。資料活用や必要な情報を正しく読み取る課題解決能力に課題がある。授業で主に学習した中央区の施設や行政に関する内容を、問題文のような一般的な市町村に応用して考えることに課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none">思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための指導計画を見直す必要がある。何を知りたいのか、そのためにどんな資料が必要なのかを教師側がはっきりさせてから児童に指示を出す。また、児童同士が集めた情報を共有し、意見を集約する場面を増やす。調べ学習等では、自分で調べたデータ等をグラフ化する活動を取り入れ、数値の表現に慣れさせる。既習事項を生かして資料の読み取りや一般化ができるよう児童自身の力で課題解決をしていく学習を取り入れる。 |

| | | |
|------------|--|---|
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学力サポートテストの結果において、多くの観点において区平均正答率を下回っている。 生命、地球の領域の思考、判断、表現の観点について課題が多い。(植物の発芽と成長：目標値30%・校内正答率12%) 方位磁針の使い方を身に付けることに課題がある。(目標値40%校内正答率31.1%) | <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学べるように体験的な学習や、実験観察の技能、観察方法に関する指導力向上・授業改善が必要。 観察・実験の結果をまとめたグラフや表から、児童に考えを説明させ、共有する学習活動を充実する。 実験観察の技能を身につけさせるために、道具は最低でも2人一つ準備し、実験器具の名称や使い方を全体で確認しながら一人が試行錯誤する時間を十分確保し、全員が使えるように指導をする。 |
| 英語 | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学力サポートテストの結果において、全国平均を上回っている。 アルファベットの大文字や小文字を音声から聞き取り、書くことに課題がある児童が多い。 大文字(目標値90%・校内正答率84%) 小文字(目標値70%・校内正答率60%) | <ul style="list-style-type: none"> 5分間の反復練習の時間に、音声聞き取って、2～3文字の単語を書く活動を充実させる。 単元の中で四線に正しい文や単語を書く活動を、毎単元取り入れる。 授業に帯活動として書く活動を取り入れる。 |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度体力調査の結果、ソフトボール投げ、20mシャトルランの記録が東京都の平均を下回っている学年が多く、投力および持久力に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、持久力を高める運動や投擲の運動を行う時間を設け、習慣化する。 外部講師からご指導いただいた投げ方の基礎基本をいかした運動を継続的に行う必要がある。 |
| 学力向上に向けた視点 | | 年度末までの目標及び指標 |
| ①各教科 | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 「令和6年度学習力サポートテスト」で言語の特徴や使い方に関する事項および情報の扱い方に関する事項のポイントを2ポイント向上させる。 ひらがなや漢字を書く力の向上を目指した授業改善を行う。 |
| | 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 数学的思考力を身に付けさせるために授業改善を行い、「令和6年度学習力サポートテスト」では、思考力・判断力・表現力の観点で区の平均正答率を上回る。 |
| | 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取り、自分の考えをワークシートに記入したり、発表したり考察を深めることができる。 |
| | 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 実験器具を正しく使用した実験や観察を通して、事象の本質を捉え、自分の考えを深めることができる。 「令和6年度学習力サポートテスト」で区の平均正答率を上回る。 |
| | 英語 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語を活用しようとしている。 文字をなぞったり、書いたりすることができる。 「令和6年度学習力サポートテスト」ですべての領域において区の平均正答率を上回る。 |
| ②授業改善 | 体育 | <ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を受け、区の平均以下について検証を行い、指導計画を修正し、体力向上を図る。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力を育成するために、各教科の特質をふまえた指導の工夫と、教科横断的視点から相互の関連付けを図り、指導体制を整える。 基礎的・基本的な学力の定着を図るための指導計画及び単元構成を行うとともに朝の時間等を有効に活用する。 教員間で互いの授業観察を行い、授業の課題を把握し改善する。 考える時間や意見交換の時間を確保し、個の考えを広げたり深めたりする。 | |

| | |
|---------|--|
| ③家庭との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会等で、タブレット端末の取り扱いや活用の仕方などを動画発信し、学校教育に理解と協力を求めていく。 |
| ④体力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツなど、日常的に意識して取り組みながら、体力向上を図る。 ・場の工夫や指示を精選し、運動量の確保をする。 ・教材研究を丁寧に行い、児童が主体的に取り組めるように指導方法を工夫する。 |



【目標達成のための具体的な取組内容】

| ① 各教科 | |
|-------|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的な授業を展開し、情報を収集・分類し、そこから自分の考えをまとめ、書いたり、発表したりする力の基礎を丁寧に指導する。 ・児童が漢字や文の構成に興味をもつような指導方法の研究および日常的な反復練習の時間の確保を行う。 ・文章を書くための基本的な力を系統立てて指導する授業計画を立てる。 |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の成果や課題を明確にし、算数習熟度委員会を中心に、数学的なものの見方を深めるための指導方法について共通理解を図る。 ・式、図、数直線など多様な方法を提示し、表現する時間を十分確保する。 ・資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを深めたり伝えたりする力を身に付けさせる授業改善を行う。 ・東京ベーシックドリルの診断テストを年3回行い、結果を分析しフローチャートで可視化をする。担任・算数科担当教員・区講師が共通理解を図り、個別に指導が必要な児童には、繰り返し丁寧に指導を行う。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取るための視点や、自分の考えをまとめてワークシートに記入し、さらに考察を深めるための必要な手立てを指導する。 ・ミライシートを活用し、地図やグラフ、必要な情報を読み取り、資料を活用する機会を多く設定する。学習活動を工夫し、自分の言葉でまとめたものを、発信する力を付ける指導を継続的に行う。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の機会を増やし、事象の本質を捉えるための視点や、自分の考えを深めるための手立てを指導する。 ・宿泊行事や校外学習の中でも、自然を観察する機会を設け、生命や自然に興味をもたせるとともに、理科の学習に生かせるようにする。 ・自分の考えを深めさせるために、小グループでの話し合い活動を取り入れる。 ・問題→予想→実験・観察→結果→考察の授業の流れを全教員が徹底する。 ・学習の定着を図るために既習事項を確認する時間を確保する。 |
| 英語 | <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携を行い、English Fileの活用方法等を考え、指導に生かす。 ・既習事項を活用し、試す場を設定する。 ・書く力を身に付けさせるために、発音から単語や手紙等を書く活動を行う時間を確保する。 |

| | |
|----|--|
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツの縄跳び、ペースランニングを行い、年間を通して楽しみながら体力向上を図る。 ・外部講師から、基礎的な体力向上の指導方法を教師が学ぶ。 |
|----|--|

②授業改善

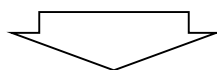
| | |
|-------|---|
| 取組 I | <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するために、自分の考えをまとめて書いたり、発表したり、他者の話を聞いて自分の考察を深めたりできる時間を十分に確保し、教科横断的に指導を行う。 ・基礎的・基本的な学力が確実に身に付くように個に応じた課題を設定し、個別指導を充実させる。 |
| 取組 II | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域で、課題解決型学習及び既習事項の活用を行う。児童が課題を的確に捉え、解決に向けた手段や、自ら計画を立てられるような授業を行う。 ・授業の終わり、単元の終わりでは、学習の振り返りを確実にを行い、学習内容の系統性や繋がりを重視した授業計画を行う。 ・思考の順序が分かるように板書を工夫し、思考が整理できるようにする。 |

③家庭との連携

| | |
|-------|--|
| 取組 I | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の取り扱いや活用の仕方を保護者会や動画配信で行い、学校教育に理解と協力を求めていく。 ・学年、学級の学習の様子を、学年だより、学校公開、保護者会、個人面談、クラスルーム等の発信で知らせていく。個別に対応が必要な場合は、電話等で随時連絡をしていく。 ・道徳授業地区公開講座や学校公開等で担任の指導の様子や、児童の様子を参観していただき、アンケートを通して今後の指導に生かす。 |
| 取組 II | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習については、その重要性について共通理解を図るとともに、家庭にも協力を求める。 ・各学力テストの結果を基に、保護者会、個人面談で課題等の共通理解を図る。 |

④体力向上

| | |
|-------|---|
| 取組 I | <ul style="list-style-type: none"> ・体育部アプリや ICT を活用し、グルーピングの方法、動画の使い方、振り返りの方法などを取り入れ、体育授業の改善と児童の体力向上を図る。 ・柔軟性を高めるために、準備運動、整理運動で使用部位のストレッチを必ず取り入れた授業計画を立てる。 |
| 取組 II | <ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツの縄跳び、ペースランニングを行っていき、年間を通して児童が意欲的に体力向上を図ることができるように、全学年で取り組む。 ・縄跳びカードやマラソンカードを活用し、継続的に体力向上を図る。 ・外遊びを推奨し、遊びを通して体力向上を図ることを児童に理解させ、指導を行う。 |



【取組結果の検証】

| 学力向上に向けた視点 | | 取組の成果 | 取組の課題及び解決策 |
|------------|----|--|---|
| ①学力基盤 | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な授業を展開することによって、多くの情報から自分の考えをまとめ、発表することができている。 漢字の小テストや日記の指導を繰り返すことにより、苦手意識が少なくなり、文章を書く力がついてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> さらに多くの情報を整理する力をつけるために、メモの取り方やノートへのまとめ方の指導を行う。 「文章を書くことが楽しい」と思う児童を育成するために、引き続き文章を書かせる時間を設定し、文章を書くための基本的な力を系統立てて指導することができるように年間指導計画を立てる。 |
| | 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 算数習熟度委員会を中心に、自分の考えをまとめ、発表する時間を設けることで、数学的なもの見方ができるようになってきている。 教科横断的な授業を展開することで、表やグラフの読み取りができ、考えを深めたり伝えたりする力が身に付いてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> 算数習熟度委員会を中心に、習熟度別の考え方や発表の仕方を全教員で確認し、それぞれの思考力・判断力・表現力を児童が身に付けられるようにする。 東京ベーシックドリルの診断テストにまだ課題がある。診断テストの結果を分析し、個別に指導が必要な児童に繰り返し丁寧に指導を行う。 |
| | 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 算数や総合的な学習において、資料から必要な情報を読み取る視点をもつことができている。 教科横断的な授業を展開することで、自分の考えをまとめ、発表する力が身に付いてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> 資料の活用にはまだ課題が見られる。引き続き、ミライシードを活用し、地図やグラフ、必要な情報を読み取り、資料を活用する機会を多く設定する等、授業改善を行う。 |
| | 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 実験の機会の増加や問題→予想→実験・観察→結果→考察の授業の流れを徹底により、予想を立て、自分の考えを深める力がついてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> さらに、自分の考えを深められるように、小グループでの話し合い活動を取り入れ、予想と結果の比較を行う授業を展開する。 学力調査では自然事象に関する項目に苦手意識がある児童が多い。宿泊行事や校外学習の中に、自然を観察する機会を設け、生命や自然に興味をもたせるとともに、理科の学習に生かせるようにする。 |
| | 英語 | <ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの中学生や国際科での外国人（ミスインターナショナル・マンダリンオリエンタルホテル）との交流により、日常的に話す機会が多くなり、活用する力が付いてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> 書くことに苦手意識がある児童がいる。ALTと連携を行い、Quick Timeに書く指導を取り入れ、苦手意識をなくす。 引き続き、日常的に話す機会を取り入れ、コミュニケーションスキルの向上を図る。 |
| | 体育 | <ul style="list-style-type: none"> マイスクールスポーツの縄跳び、ペースランニングで記録表を作ることで、児童が楽しんで体力向上をすることができていた。 | <ul style="list-style-type: none"> マイスクールスポーツや外部講師による授業を年間指導計画に設定し、1年を通して体力向上や基礎的な運動能力の向上ができるようにする。 |

| | | | |
|---------|--|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 外部講師にボールの投げ方を指導していただき、児童のボールの投げ方が身に付いてきている。 | |
| ②授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> 自分で考える時間を十分に確保することで、自分の考えをまとめ、発表する自信を児童がもつことができてきている。 他教科との教科横断的な授業を展開することで、自分の考えをまとめ、発表する自信につながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力が確実に身に付くように個に応じた課題を設定し、個別指導を充実させる。 思考力・判断力・表現力にはまだ、課題が見られる。思考の順序が分かるように板書を工夫する。また課題解決型学習及び既習事項の活用を行い、児童が課題を的確に捉え、解決に向けた手段や、自ら計画を立てられるような授業を行う。 | |
| ③家庭との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 学年、学級の学習の様子を、学年だより、学校公開、保護者会、個人面談、クラスルーム等の発信で知らせることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の取り扱いや活用の仕方がまだ徹底することができていない。引き続き、保護者会や個人面談を通して学校教育に理解と協力を求めている。 | |
| ④体力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカードやマラソンカードを活用し、表彰することで意欲的に体力向上を図ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> マイスクールスポーツの縄跳びとペースランニングを中心に児童が意欲的に体力向上を図ることができるように、年間指導計画を見直す。 外遊びを推奨し、遊びを通して体力向上を図ることができるように指導を行う。休み時間だけでなく、放課後にも遊ぶ時間を確保する。 | |